

いきなりRAW現像

ワンランク上の写真作品作りを目指そう
（PhotoshopCS6・CameraRaw対応版）

立ち読み版
（全388頁の内の84頁を
ご覧頂けます）

JTC舞アートフォト
伊藤ひかる 著

日本図書コード管理センター　ISBNコード　978-4-906836-03-1

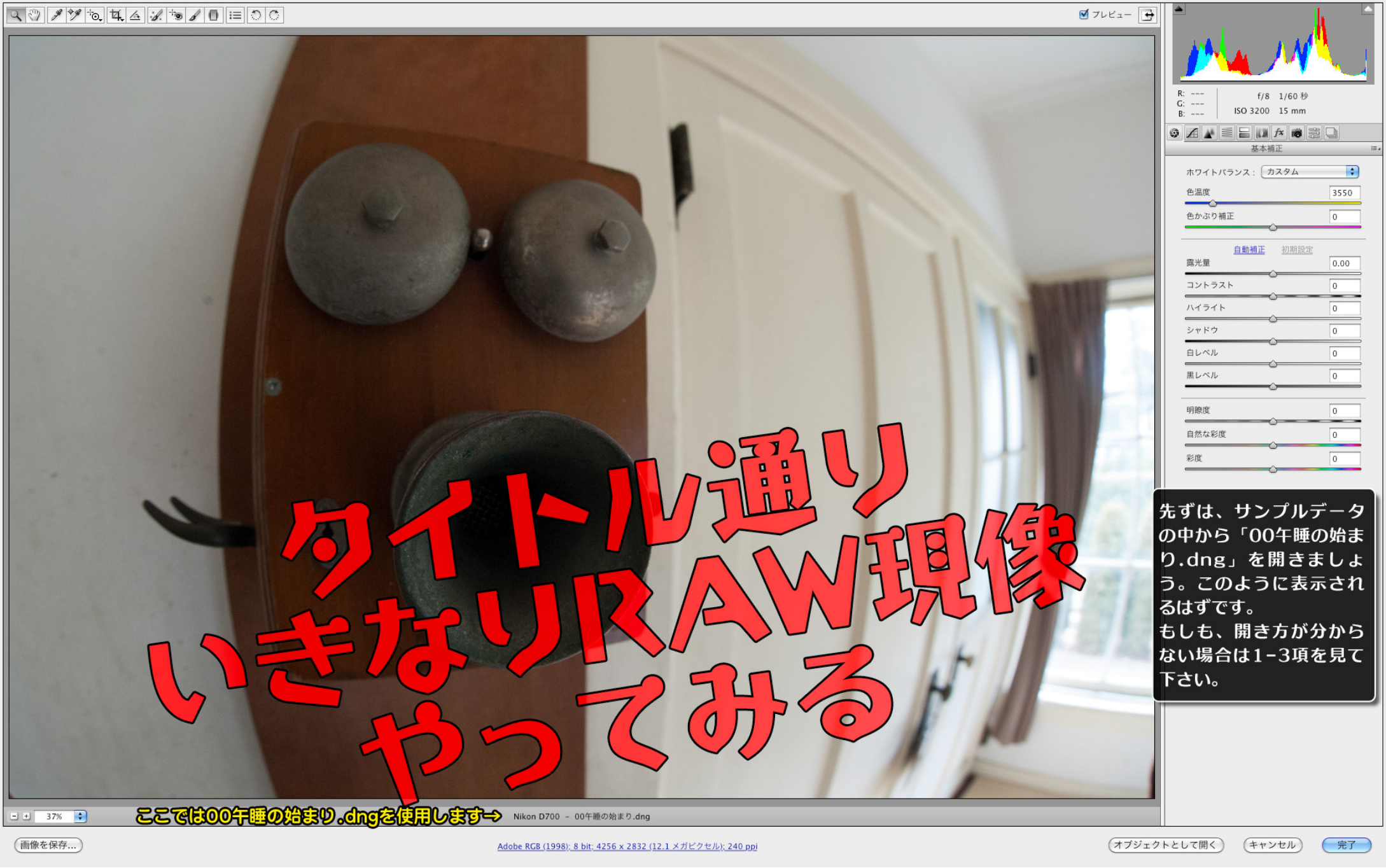


ようこそ、いきなりRAW現像ワールドへ

実は、著者自身がRAW現像はPhotoshop等をマスターした人が行うもので大変に難しそう、手間が掛かるものと思って避けていました。ところが、やってみるとRAW現像が完全ではないものの、いきなりできてしまったのです。しかも、なんとく撮った普通の写真が光り輝いてきたのです。これは感動ものでした。RAW現像はいい写真への近道だと実感しました。

ということから、皆さんにもぜひRAW現像されるようお薦めしたいと思ったのですが、適切な指導書を見つけることができず、不明箇所や問題点の解決にはかなりの時間を費やしてしまいました。そこで私のような無駄な時間を費やすことが無く、「いきなりRAW現像」していただこうということから、本解説書を取り纏めた次第です。（解説書と偉そうに言うより経験したことからのヒント集と言うべきかも）

では、ものの試しに本書のタイトル通りにこの背景画と同じ画像で「いきなりRAW現像」してみましょう。何も知らないからそれは無理、ですって。そんなこと無いです。ご安心下さい。


プレビュー
R: ---
G: ---
B: ---
f/8 1/60 秒
ISO 3200 15 mm
基本補正
ホワイトバランス： カスタム
色温度 3550
色かぶり補正 0
自動補正 初期設定
露光量 0.00
コントラスト 0
ハイライト 0
シャドウ 0
白レベル 0
黒レベル 0
明瞭度 0
自然な彩度 0
彩度 0
タイトル通り
いきなりRAW現像
やってみる
先ずは、サンプルデータの中から「00午睡の始まり.dng」を開きましょう。このように表示されるはずです。
もしも、開き方が分からない場合は1-3項を見て下さい。
37%
ここでは00午睡の始まり.dngを使用します→
Nikon D700 – 00午睡の始まり.dng
画像を保存...
Adobe RGB (1998); 8 bit; 4256 x 2832 (12.1 メガピクセル); 240 ppi
オブジェクトとして開く
キャンセル
完了


プレビュー
R: ---
G: ---
B: ---
f/8 1/60 秒
ISO 3200 15 mm
基本補正
ホワイトバランス： カスタム
色温度 3500
色かぶり補正 0
自動補正 初期設定
露光量 +1.75
コントラスト 0
ハイライト -100
シャドウ +40
白レベル 0
黒レベル -50
明瞭度 +50
自然な彩度 +90
彩度 +90
RAW現像
できちゃいました！！
意味は分からなくても結構ですから、上記の赤丸の部分をその数値の通りにして下さい。たったこれだけで、撮り損ないのような写真が、何か意味ありげな写真になりました。これがRAW現像というものなのです。
37%
Nikon D700 – 00午睡の始まり.dng
画像を保存...
Adobe RGB (1998); 8 bit; 4256 x 2832 (12.1 メガピクセル); 240 ppi
画像を開く
キャンセル
完了


1章.オリエンテーション
1-1.補正メニューの概要
←⑥回転ツール
前の画面に戻る→
プレビュー
表示領域が広がる↑
②トーンカーブ↓
③シャープネスとノイズ低減↓
①基本補正→
↑④角度補正ツール
↑⑤切り抜きツール
画像全体を補正するものは
①基本補正(絞りのマーク)
(右メニューの色温度～彩度まで)
②シャープネスとノイズ低減
③角度補正ツール
④切り抜きツール
⑤回転ツール
①基本補正でできることは
色味系：
色温度
色かぶり
くつきり系：
コントラスト
明瞭度
自然な彩度
彩度
明るさ系(明暗系)：
露光量
ハイライト
シャドウ
白レベル
黒レベル
先ずは全体・部分補正別に
1章に解説
ここではIMG_0001.dngを使用します
RAW画像の開き方は1-3項をご覧下さい
基本補正
ホワイトバランス：
カスタム
色温度
色かぶり補正
自動補正
初期設定
露光量
コントラスト
ハイライト
シャドウ
白レベル
黒レベル
明瞭度
自然な彩度
彩度
画像を保存...
オブジェクトとして開く
キャンセル
完了

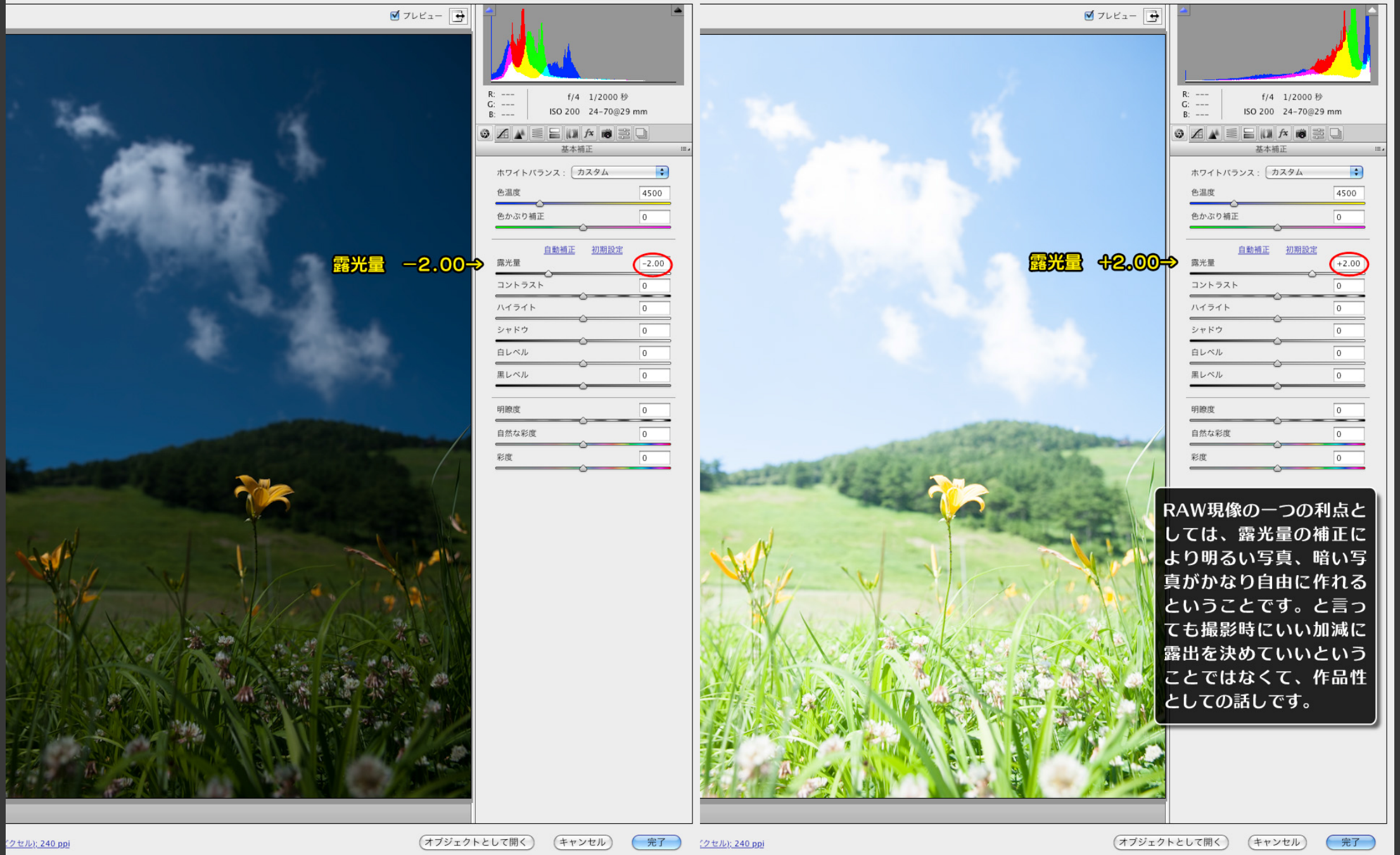


（注）RAW現像の最大の特徴は、色温度の調整で色味を調整することです。こういう概念はPhotoshop等の画像レタッチソフトには無いことでした。
色温度（いろおんど。しきおんどと言った方がなんとなくプロっぽい）とは、ある光源が発している光の色の単位（Kケルビン）。と言って分かりにくいですが、電灯の下でカメラを何も調整しないで写真を撮るとオレンジっぽくなりますし、曇り空では青っぽくなります。この問題を解決するために、色温度を調整して見た目に近いように、あるいは自分が好ましいと思う色味にします。なお、通常のデジタルカメラの色温度は2500～10000の範囲内ですが、CameraRawでは2000～50000です。



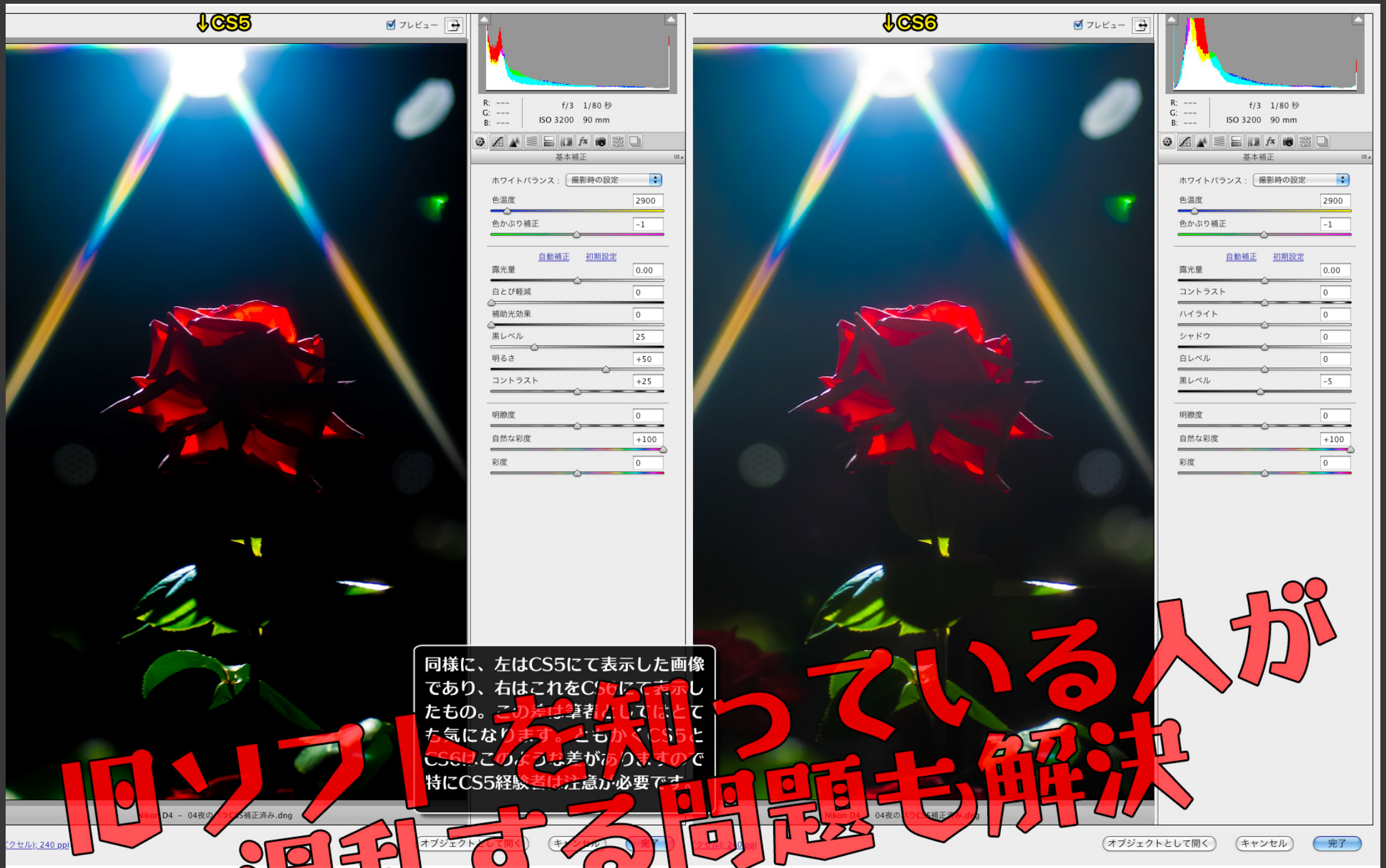
機能説明なので極端な例です

（注）色かぶりとは、周辺の色の影響により偏った色味になるらしいです。らしいというのは絶対的な定義がはっきりしません。それはともかくとして、▲マークをスライドさせると、緑とマゼンタの間の色味の補正になると覚えておいて下さい。色温度とこの色かぶりの二つの組み合わせにより好みの色味に補正するのですが、やはりこの辺りが一番の難所です。沢山写真を撮って、沢山補正してして慣れるしかないです。

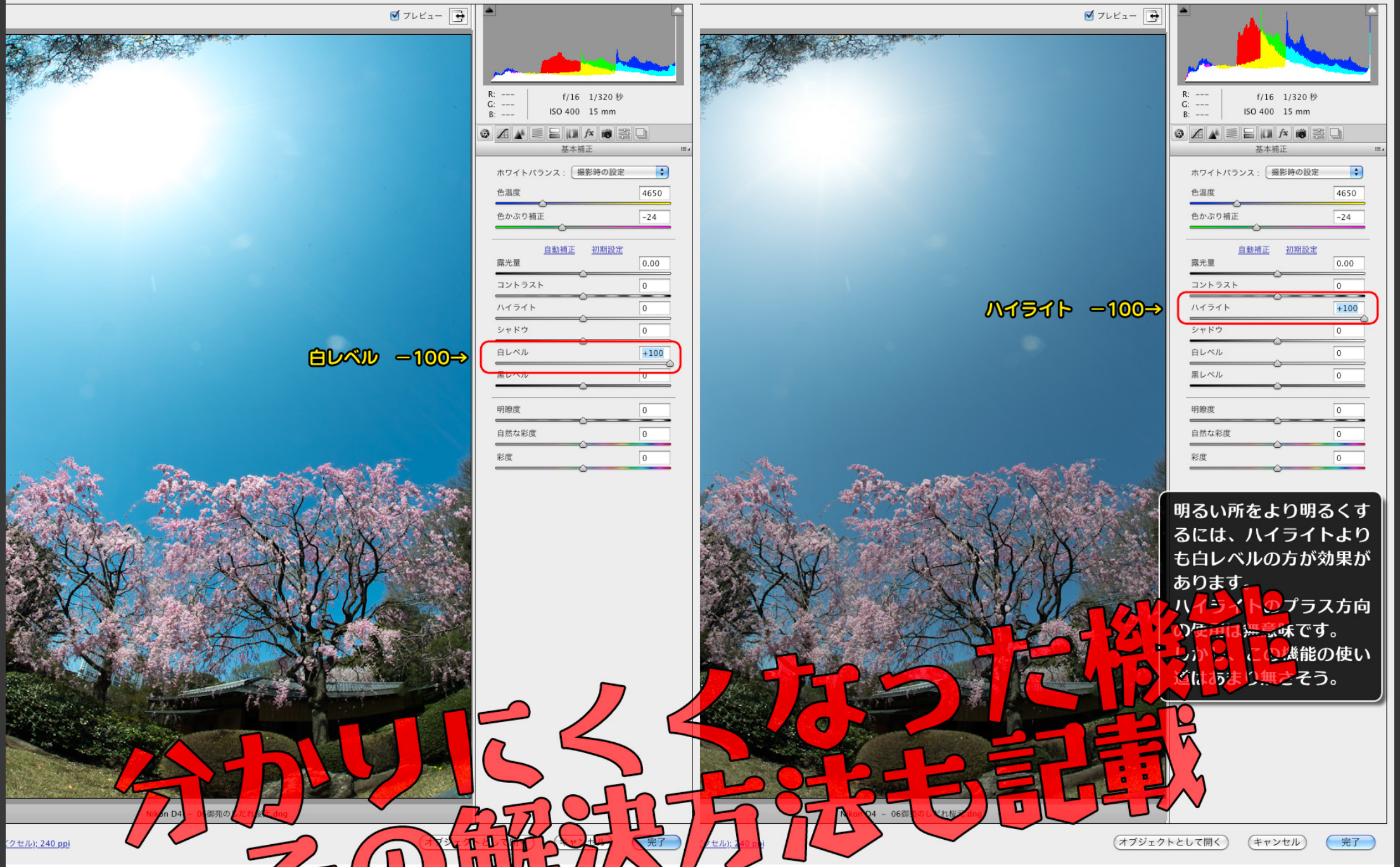


（注）CS5のRAW現像には「明るさ」という補正項目があり、穏やかに明るさを調整できました。CS6になってこれが無くなりましたので、もしもほんのすこし明るく、暗くしたいときには、好ましいことではありませんが、トーンカーブを使用する必要があります。
露光量という言葉からすると、+1.00は露出の1段（=2倍の光量）に相当するはずですが、その真偽はまだ試していません。


1-2.明暗、コントラストに関するご注意
1-2-1.自動トーン調整は必ずオフにする
Adobe Bridge CS6
Bridge について...
Camera Raw 環境設定...
環境設定... ⌘K
サービス
Adobe Bridge CS6 を隠す ⌘H
他を隠す ⌥⌘H
すべてを表示
Adobe Bridge CS6 を終了 ⌘Q
01_01完成.JPG
01_01完成.NEF
ITO_3342.JPG
ITO_3342.NEF
ITO_3343.JPG
ITO_3343.NEF
もしも、上記のようにJPEG画像がRAW画像よりも明るく見える事があったら、「自動トーン調整の適用」がオンになっているからです。
先ず、一番左上のBridgeCS6の下の「CameraRaw環境設定...」を選択して下さい。（今使用しているのは、Bridge...なのでCameraRawの環境設定を選択するとは誠に奇妙ですが、このアプリには今後も奇妙なことがありますから、この程度では驚かないように・・・）
この悩ましい現象の
解決方法も記載



旧ソフトだけを知っている人が混乱する問題も解決



分かりにくくなった機能！その解決方法も記載

2章.自動補正

たまたまうまくいく自動補正はありますが、大半は機能的にダメ
思いが色に溶け込まないのでいい写真になる筈がありません。
窮余の一策程度の利用価値。

（元）



これは
たまたま
うまく
いきました

（自動補正後）



（元）



これは
まったく
ダメです

（自動補正後）



（元）



これもダメ

（自動補正後）



自動処理で上手くいくのは
例外で、大半はNG

2章.自動補正



R: 218
G: 112
B: 75

f/2.8 1/180 秒
ISO 3200 24-70@24 mm

基本補正

ホワイトバランス：撮影時の設定
色温度 5800
色かぶり補正 +1

自動補正 初期設定
露光量 0.00
コントラスト 0
ハイライト 0
シャドウ 0
白レベル 0
黒レベル 0

明瞭度 0
自然な彩度 0
彩度 0

最も簡単な補正方法をご紹介します。
08HOPEカードをを開きます。照明がタングステンライトであったせいか、撮影時に選んだ色温度が高かったせいか、ものの見事に茶黄色転びの写真。

幸運にもうまくできた例

08HOPEカード.dngを開きます→

31.1%

Nikon D700 - 08HOPEカード.dng

画像を保存...

Adobe RGB (1998); 8 bit; 2259 x 3389 (7.7 メガピクセル); 240 ppi

オブジェクトとして開く キャンセル 完了


↑①ホワイトバランスツール
②カードの白の部分をクリック→
HOPE
HOPEと書かれたカードの白い部分をホワイトバランスツールでクリックするだけでこの通り。ですが、こんなにも都合良くカードを持った女性なんて滅多にいません。偶然の出来事。
HOPEカードのお陰です
ホワイトバランスツール (I)
プレビュー
R: ---
G: ---
B: ---
f/2.8 1/180 秒
ISO 3200 24-70@24 mm
基本補正
ホワイトバランス：
カスタム
色温度
2500
色かぶり補正
-40
自動補正
初期設定
露光量
0.00
コントラスト
0
ハイライト
0
シャドウ
0
白レベル
0
黒レベル
0
明瞭度
0
自然な彩度
0
彩度
0
31.1%
Nikon D700 - 08HOPEカード.dng
画像を保存...
Adobe RGB (1998); 8 bit; 2259 x 3389 (7.7 メガピクセル); 240 ppi
オブジェクトとして開く
キャンセル
完了


プレビュー
R: ---
G: ---
B: ---
f/4 1/1000 秒
ISO 1600 70-200@200 mm
基本補正
ホワイトバランス： 撮影時の設定
色温度 4400
色かぶり補正 +13
自動補正 初期設定
露光量 0.00
コントラスト 0
ハイライト 0
シャドウ 0
白レベル 0
黒レベル 0
明瞭度 0
自然な彩度 0
彩度 0
ホワイトバランスプリセットの有効性を確かめてみましょう。
01ダンサーYumi.dngを開いてください。この画像はRAW現像してありません。
大半はうまくいかない
01ダンサーYumi.dngを開きます→
Nikon D700 – 01ダンサーYumi.dng
24.8%
画像を保存...
Adobe RGB (1998); 8 bit; 2832 x 4256 (12.1 メガピクセル); 240 ppi
画像を開く
キャンセル
完了


プレビュー
R: ---
G: ---
B: ---
f/4 1/1000 秒
ISO 1600 70-200@200 mm
基本補正
ホワイトバランス： 撮影時の設定
色温度 4400
色かぶり補正 +13
自動処理→
自動補正
初期設定
露光量 +0.35
コントラスト -21
ハイライト -26
シャドウ +26
白レベル +40
黒レベル -21
明瞭度 0
自然な彩度 0
彩度 0
「自動補正」という機能があります。これも不適当です。
要はこの項に記載した各種の自動的にホワイトバランスを整える方法の大半は残念ながら余り役に立たないということです。
価値としては、どうしたらいいのか、分からなくなったときに試しに使ってみるという程度でしょう。
そもそも心がこもらない
自動処理でいい写真は無理
24.8%
画像を保存...

さぁ、ここからがここから本当のRAW現像ワールド。
あなたの思いが綺麗な色になり、写真が光り輝きます。











色温度と色かぶり補正をマスターしましょう



（注）もしも記録としての写真だったら、「お肌をキレイにしよう」する必要はありません。この写真のままで充分でしょう。でも、この写真をプレゼントして喜ばれたい、いつまでいいお友達でいて欲しいからなのです。RAW現像の時に考えるとはこういうことです。

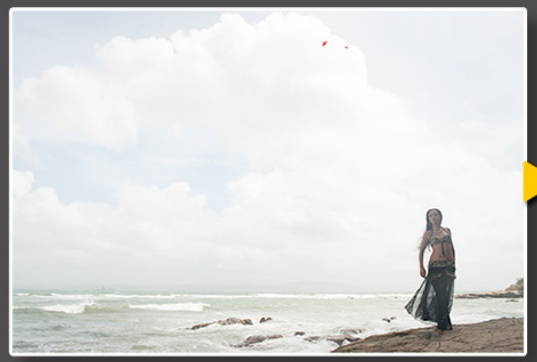


（注）「コントラスト」と「明瞭度」の機能も大変に似ています。「コントラスト」はやや華やかな感じに、「明瞭度」はやや黒ずんだコントラストとなる傾向があります。
但し、「明瞭度」は少し掛けることによりシャープネス処理をしなくてもシャープな感じになります。うまく使い分けましょう。


撮影時の色温度　5600→
福島県の明るい未来を願って、ある牧場の4本の桜の木を撮りに行きました。一度目は未だ蕾で、その一週間後には既に散っていました。また来年行こう。
明るい福島の未来を願って
RAW現像しましょう
16福島の春.dngを開きます→
画像を保存...
オブジェクトとして開く
キャンセル
完了


←四隅が周辺光量落ち
色温度　4700→
露光量　+1.00→
黒レベル　−80→
自然な彩度　+70→
クリアな感じにするために
自然な彩度を−70に。
色温度等とは無関係ですが
大変な周辺光量落ち。安く
はないレンズなのに。
この問題解決は、第8章を
ご覧下さい。
四隅の暗さは
レンズ補正の項で説明

単なる明暗ではなく、白く飛んでいるような空から雲を浮き上がらせる、
部分的な明暗の付け方、暗い所から見えないものを浮き上がらせる明暗補正です。
またCameraRawのおかしな明暗の項目の扱いも説明します。











ボツ写真を救い、
もしかしたらアートに



（注）補正に着手する前に、ヒストグラムの右上の△マークをクリックして白飛び警告を出してみましょう。画面上の赤い色の部分が、白飛びもしくはその可能性がある部分です。露出オーバーで救いようがない写真かと思いましたが、そうでもなくて救えそうです。オプションキーを押しながら、ハイライトの△マークを移動させるとモノクロ画面になり、どこで白飛びしそうなのかが分かります。白飛び警告が無くなればこの写真は救済できるということです。


プレビュー
R: 109
G: 164
B: 209
f/13 1/320 秒
ISO 400 24-70@29 mm
基本補正
ホワイトバランス： カスタム
色温度 4700
色かぶり補正 -8
自動補正 初期設定
露光量 -2.75
コントラスト 0
ハイライト 0
シャドウ +85
白レベル +50
黒レベル 0
明瞭度 0
自然な彩度 +100
彩度 0
このようになる方法とは
ボツかと諦めた写真が生き返りました。
RAWだからできたことで、JPEGでは不可能だったでしょう。
38.8%
Nikon D700 – 18海からヴィーナス.dng
画像を保存...
Adobe RGB (1998); 8 bit; 4062 x 2708 (11.0 メガピクセル); 240 ppi
オブジェクトとして開く
キャンセル
完了

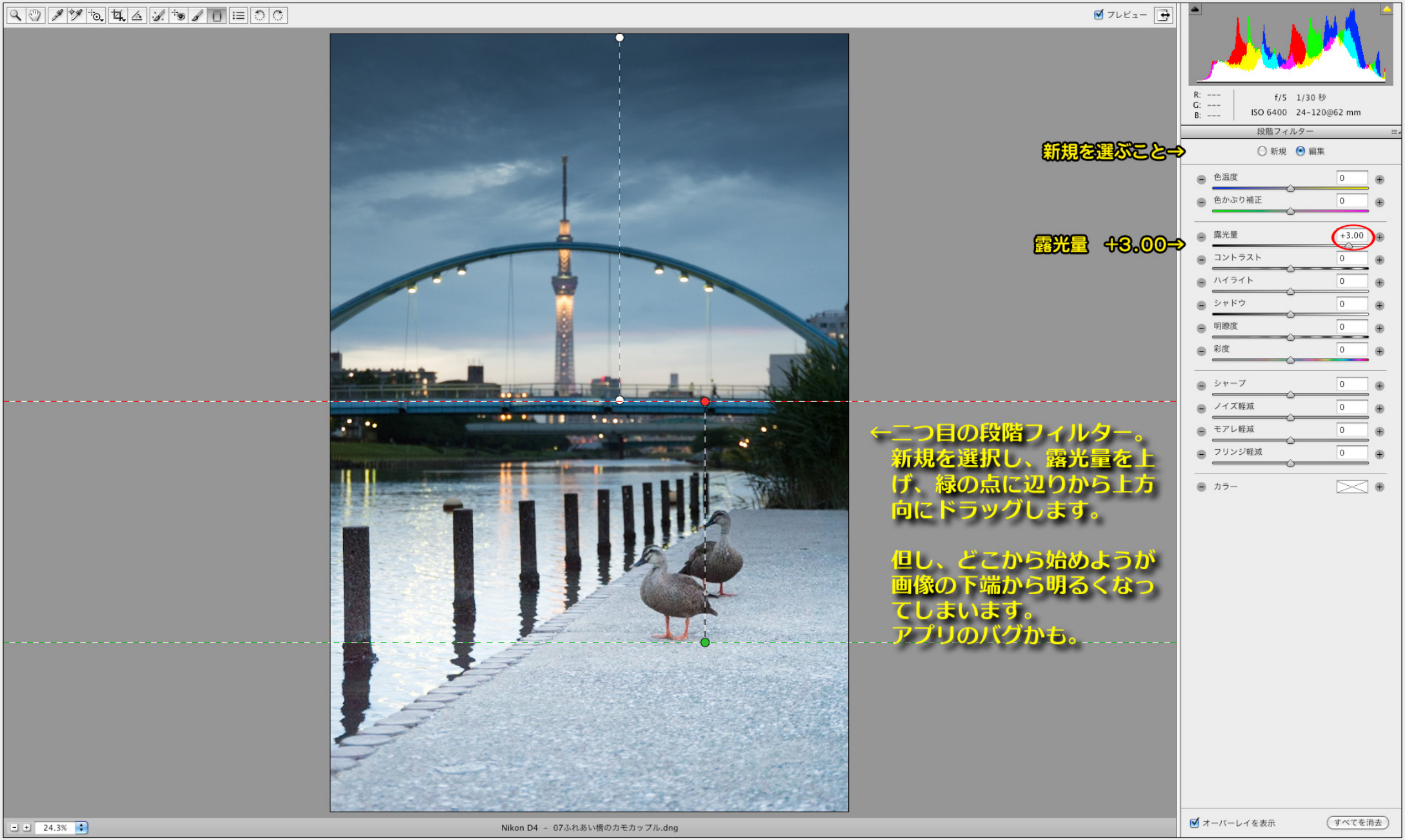


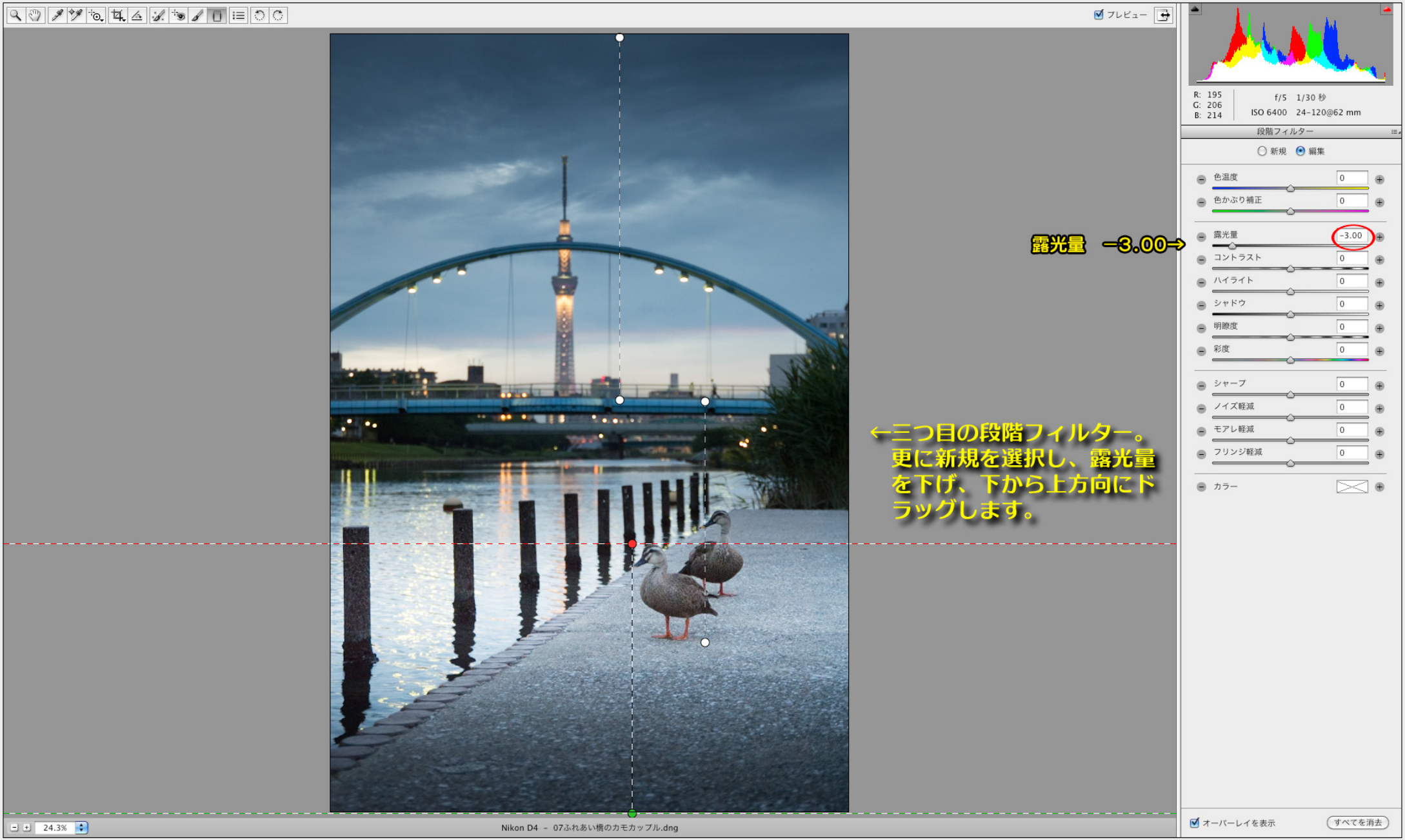
意外に使える段階フィルター

（注）このオリジナル画像は、既に傾きの調整とトリミング処理をしてあります。



（注）段階フィルターをドラッグする際にシフトキーを押しながら行うと、水平・垂直にドラックできます。


プレビュー
新規を選ぶこと→
露光量　+3.00→
←二つ目の段階フィルター。
新規を選択し、露光量を上げ、緑の点に辺りから上方向にドラッグします。
但し、どこから始めようが画像の下端から明るくなってしまいます。
アプリのバグかも。
R: ---
G: ---
B: ---
f/5　1/30 秒
ISO 6400　24-120@62 mm
段階フィルター
新規
編集
色温度
色かぶり補正
露光量
+3.00
コントラスト
ハイライト
シャドウ
明瞭度
彩度
シャープ
ノイズ軽減
モアレ軽減
フリンジ軽減
カラー
オーバーレイを表示
すべてを消去
24.3%
Nikon D4 – 07ふれあい橋のカモカップル.dng
画像を保存...
Adobe RGB (1998); 8 bit; 2890 x 4336 (12.5 メガピクセル); 240 ppi
オブジェクトとして開く
キャンセル
完了

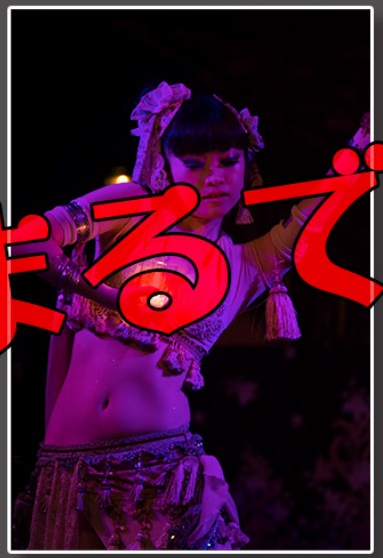

プレビュー
R: 195
G: 206
B: 214
f/5 1/30 秒
ISO 6400 24-120@62 mm
段階フィルター
新規
編集
色温度 0
色かぶり補正 0
露光量 -3.00
コントラスト 0
ハイライト 0
シャドウ 0
明瞭度 0
彩度 0
シャープ 0
ノイズ軽減 0
モアレ軽減 0
フリンジ軽減 0
カラー
露光量 ―3.00→
←三つ目の段階フィルター。
更に新規を選択し、露光量
を下げ、下から上方向にド
ラッグします。
24.3%
Nikon D4 – 07ふれあい橋のカモカップル.dng
オーバーレイを表示
すべてを消去
画像を保存...
Adobe RGB (1998); 8 bit; 2890 x 4336 (12.5 メガピクセル); 240 ppi
オブジェクトとして開く
キャンセル
完了

彩度を高めるだけで見えない物が見えてくることもあります。
RAW現像には中間調の彩度、寒色や暖色別の彩度等、彩度にもいろいろあります。
マスクとかの高度なテクニック無しに、部分的に彩度を落とすことも可能。





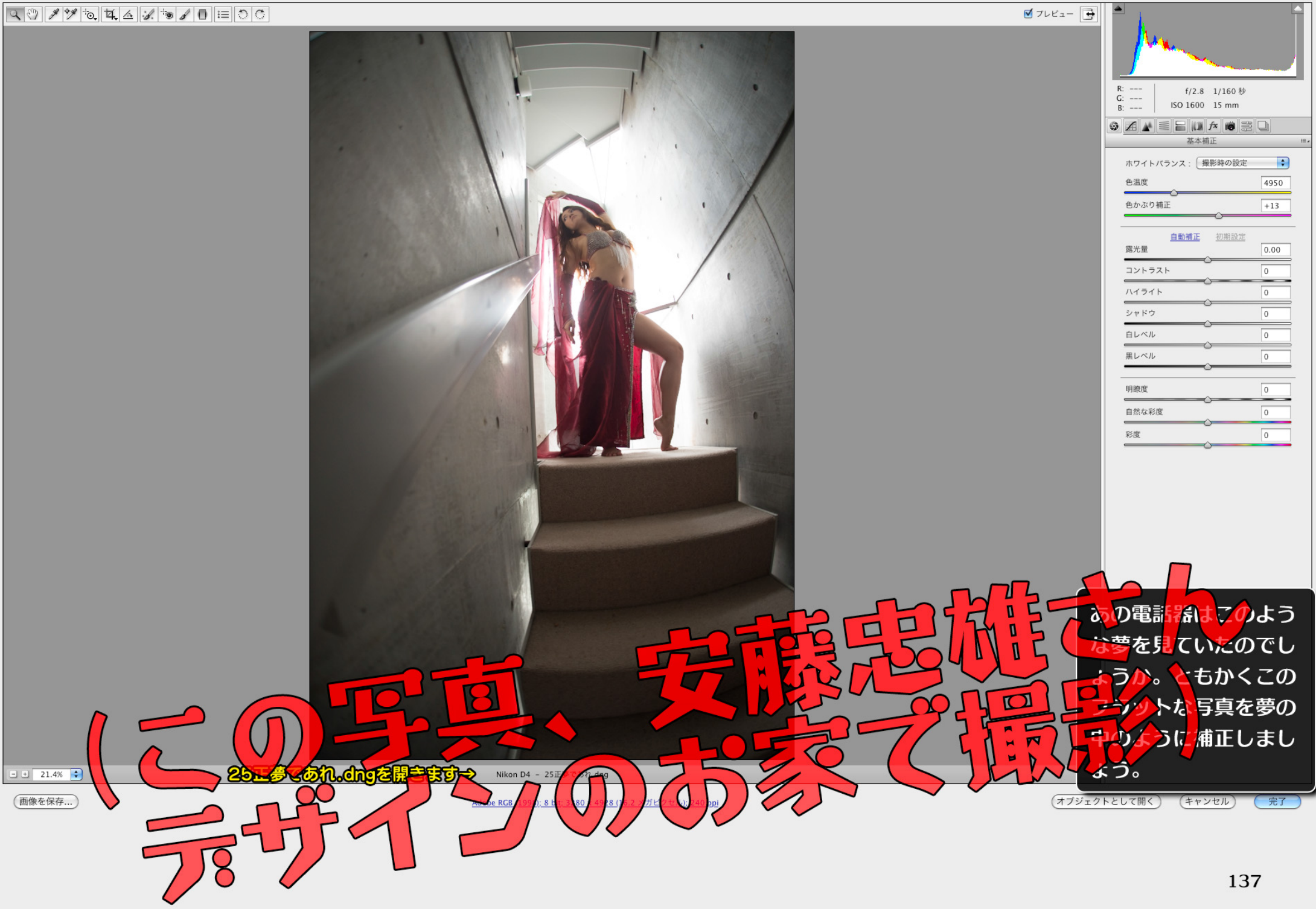



彩度を操るとまるで別写真


プレビュー
R: 205
G: 204
B: 192
f/8 1/30 秒
ISO 3200 20 mm
基本補正
ホワイトバランス：撮影時の設定
色温度 3500
色かぶり補正 -3
自動補正 初期設定
露光量 0.00
コントラスト 0
ハイライト 0
シャドウ 0
白レベル 0
黒レベル 0
明瞭度 0
自然な彩度 0
彩度 0
くすんだ写真を
いきなりRAW現像した電話器の正面撮り写真です。午睡というイメージにまとめてみましょう。
23電話器CS6.dngを開きます→
24.8%
Nikon D700 – 03電話器CS6.dng
画像を保存...
Adobe RGB (1998); 8 bit; 2832 x 4256 (12.1 メガピクセル); 240 ppi
オブジェクトとして開く
キャンセル
完了


プレビュー
R: ---
G: ---
B: ---
f/8 1/30 秒
ISO 3200 20 mm
基本補正
ホワイトバランス： 撮影時の設定
色温度 3500
色かぶり補正 -3
自動補正 初期設定
露光量 +1.50
コントラスト +100
ハイライト 0
シャドウ 0
白レベル 0
黒レベル 0
明瞭度 +100
自然な彩度 +100
彩度 +100
露光量 +1.50→
24.8%
画像を保存...
オブジェクトとして開く
キャンセル
完了
更にくすませて彩度を上げみましょう
露光量を+1.50にして画面全体を明るくしてみました。長〜い午睡に見えるでしょうか。傾きは意図的なのでこのままにしておきます。

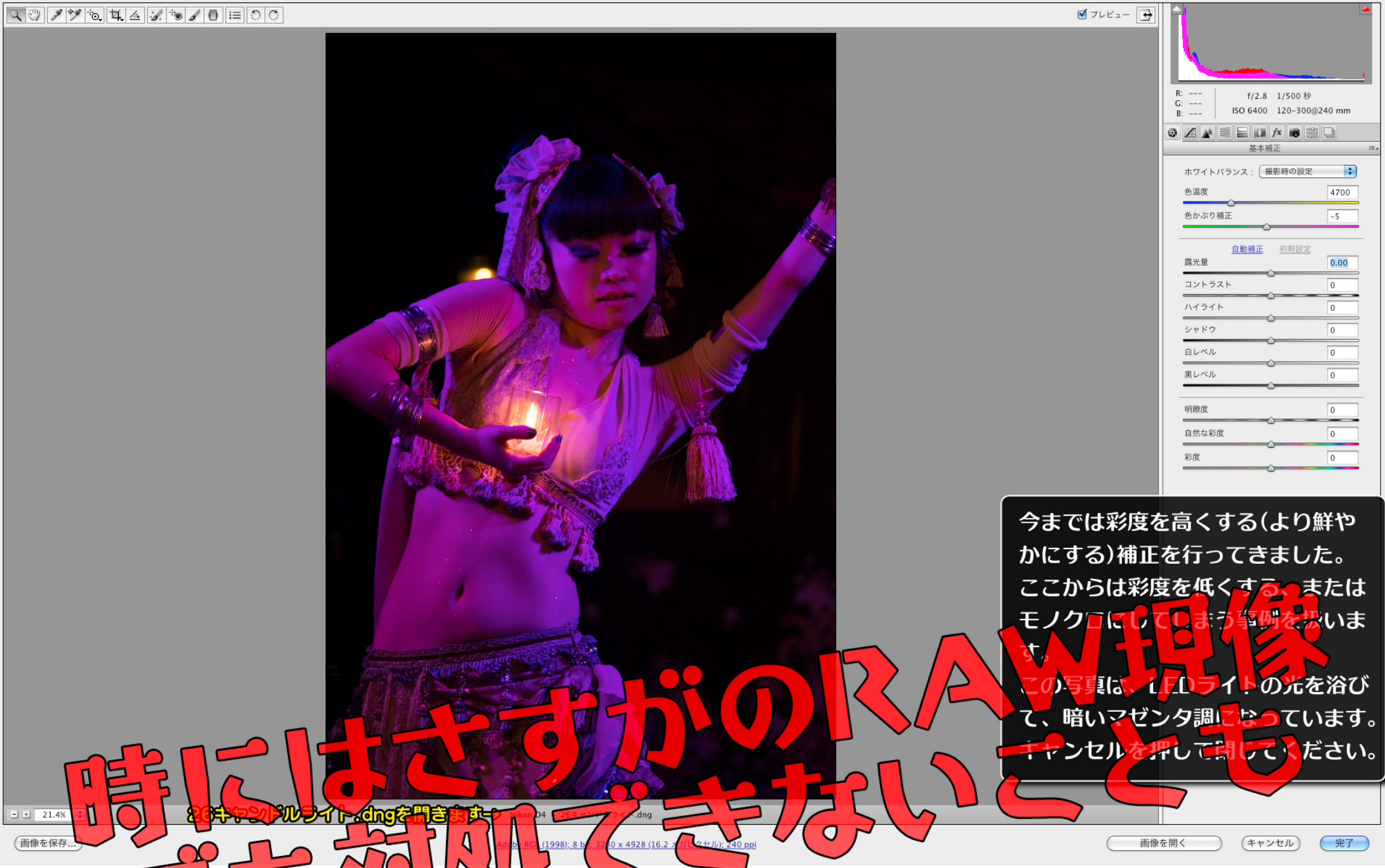

プレビュー
R: ---
G: ---
B: ---
f/2.8 1/160 秒
ISO 1600 15 mm
基本補正
ホワイトバランス： 撮影時の設定
色温度 4950
色かぶり補正 +13
自動補正 初期設定
露光量 0.00
コントラスト 0
ハイライト 0
シャドウ 0
白レベル 0
黒レベル 0
明瞭度 0
自然な彩度 0
彩度 0
あの電話器はこのような夢を見ていたのでしょうか。ともかくこのようなシュールな写真を夢のように補正しましょう。
21.4%
25正夢であれ.dngを開きます→
Nikon D4 - 25正夢であれ.dng
画像を保存...
オブジェクトとして開く
キャンセル
完了
（この写真、安藤忠雄さんデザインのお家で撮影）



大切なのはお肌の色？
壁の質感、両方とも？

好ましいお肌の色になるように色温度を少しずつ下げます。これにより壁と衣装との対比が良くなったと筆者は個人的には満足です。

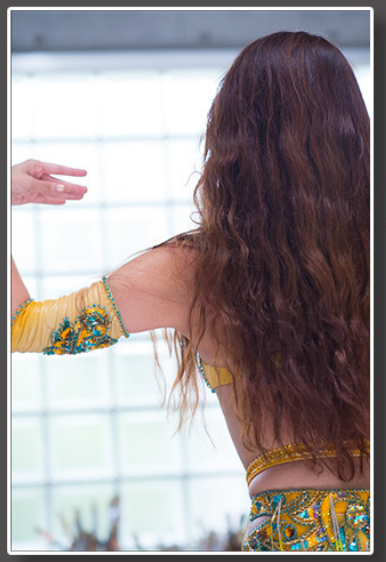
（注）色温度等を少しずつ調整するには、↑↓キーを使用すると便利です。シフトキーやコマンドキーと組み合わせると大幅に変更することができます。


プレビュー
R: ---
G: ---
B: ---
f/2.8 1/500 秒
ISO 6400 120-300@240 mm
基本補正
ホワイトバランス： 撮影時の設定
色温度 4700
色かぶり補正 -5
自動補正 初期設定
露光量 0.00
コントラスト 0
ハイライト 0
シャドウ 0
白レベル 0
黒レベル 0
明瞭度 0
自然な彩度 0
彩度 0
今までは彩度を高くする(より鮮やかにする)補正を行ってきました。
ここからは彩度を低くする、またはモノクロにしてしまう事例を扱います。
この写真は、LEDライトの光を浴びて、暗いマゼンタ調になっています。
キャンセルを押して閉じてください。
時にはさすがのRAW現像
でも対処できないことも
21.4%
画像を保存...
画像を開く
キャンセル
完了

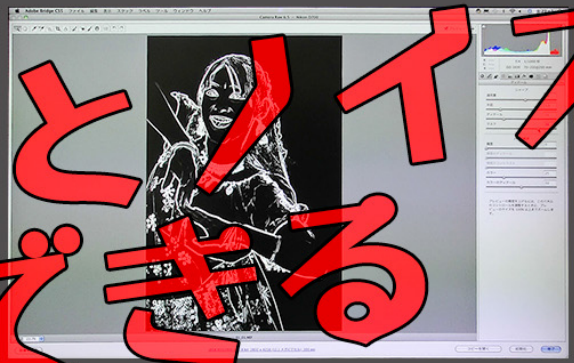

プレビュー
R: ---
G: ---
B: ---
f/2.8 1/500 秒
ISO 6400 120-300@240 mm
基本補正
ホワイトバランス： カスタム
色温度 2000
色かぶり補正 -150
自動補正 初期設定
露光量 +3.00
コントラスト 0
ハイライト -30
シャドウ +4
白レベル 0
黒レベル 0
明瞭度 +25
自然な彩度 +50
彩度 0
ピンを表示
すべてを消去
66.7%
画像を保存...
画像を開く
キャンセル
完了
そんなときの一策
補正ブラシの良さが
これで完了です。
しかし、唇や目の周り
のなぞり方に丁寧さが
足りませんでした。
反省。

シャープネスはエッジだけに掛ける、これが簡単にできます。
シャープネスとノイズ低減は相反することですが、
これを同時に見つつ微妙な設定が可能です。









矛盾するシャープとノイズを同時に確認できる

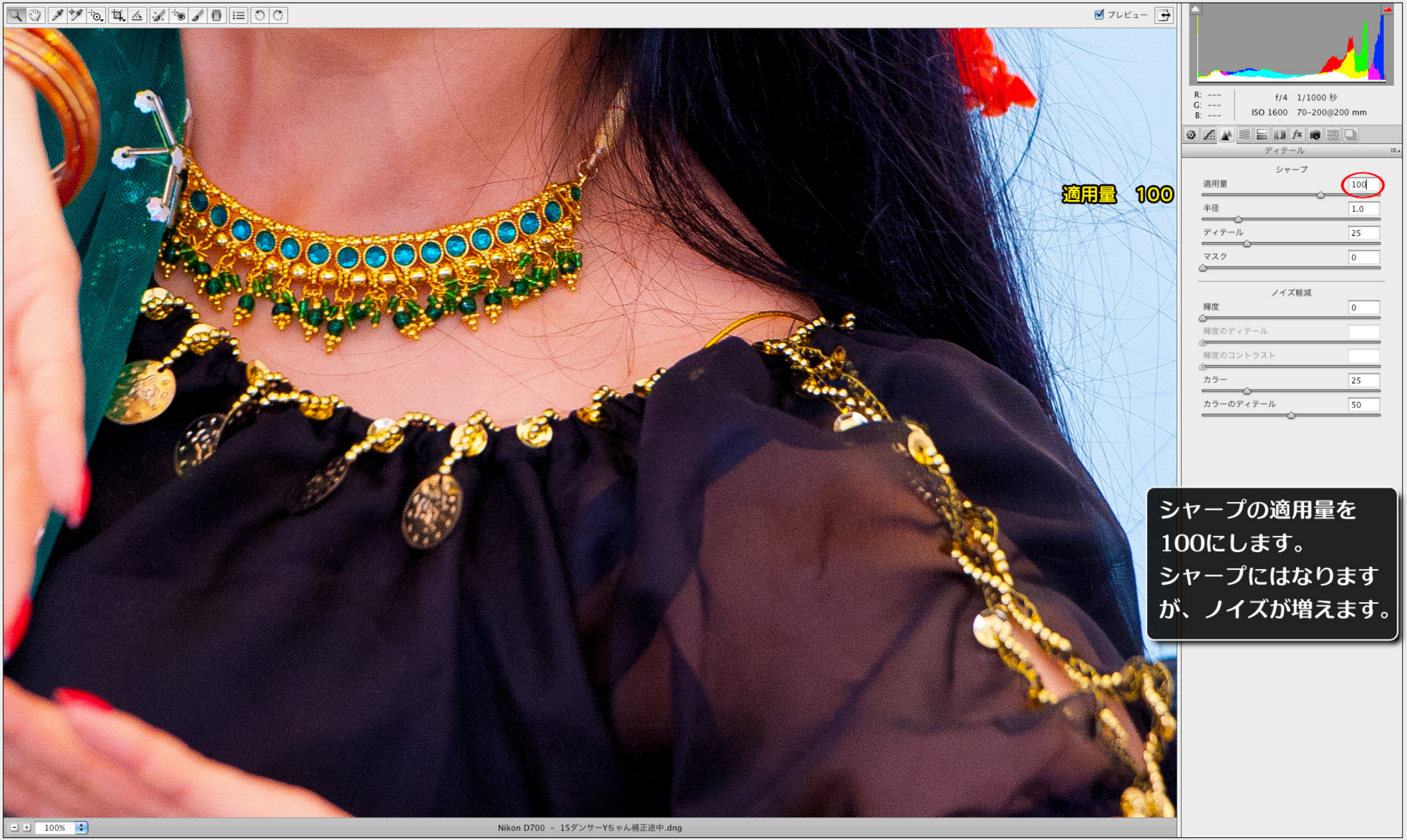


（注）一般的なデジタルカメラの受光素子の構造上、画像はピントがやや甘くなります。JPEGデータはカメラ内でシャープネス処理がなされていますが、RAWの場合は殆どなされていません。ですから、常にシャープネス処理が必要となります。でもシャープネスを強く掛けると写真はくっきりとしますが、その反面、ノイズ（画像のざらつき）が出てしまいます。レンズに関しては、よほど高価なレンズでない限り画像の周辺が暗くなりがちです。これを周辺光量落ちと言います。フルサイズのCCDでは特に目立ちます。



画面拡大方法もいろいろと

（注）画面を拡大する方法はいろいろあります。
①今、左上が虫眼鏡マーク。この時はマウスの左ボタンをクリックすると拡大、オプションキーを押しながらクリックすると縮小。②虫眼鏡をダブルクリックすると100%表示。
③左下の%表示がある部分をクリックして拡大率を選ぶ。④マウスの左ボタンを押して四角くドラッグ。
⑤最も分かりよいのは、単にマウスの右ボタンを押す方法して拡大率を選ぶ方法。



（注）シャープの半径とディテールの数値はこのままにしておいた方が（変更しないほうが）良さそうです。



（注）ディテールのマスクはシャープネスの範囲を決めます。マスクの▲マークをマウスの左ボタンでクリックし、かつオプションキーを押すと、画面左のようなモノクロ画面となります。白い部分にシャープネスが掛かりますよ、黒い部分にはシャープネスの処理はしませんという意味です。▲マークが左側にあるときは①のようになり、右の方にあるときは②のようになります。シャープが掛かる部分がはっきり見えて、とてもいい機能です。マスクの語は、ここにはシャープを掛けませんの意味でしょうが、理解しにくい言葉です。しかも補正ブラシのマスクとは真逆の意味合いです。ご注意下さい。



photoshopにてのシャープ処理も説明しています

（注）筆者の場合は、通常はシャープ・適用量は50～80位、ノイズ低減・輝度は40位としています。青や赤のカラーノイズがあるときにはカラーを30～50位にしています。
このRAW現像ソフトでは、シャープとノイズ低減が同時に見ることができます。とても良い機能です。
ノイズ軽減の輝度のディテール、輝度のコントラスト、カラーのディテールも変更しない方が良さそうです。

周辺光量落ち、広角レンズの歪み(?)、色収差、
下から見上げて撮った写真にありがちな傾き等々のいろいろな補正です。
そんなこまかなひとどうでもいいと思いがちですが、実は結構大事。





レンズ補正の効果的な使用法を紹介


プレビュー
R: ---
G: ---
B: ---
f/4 1/1000 秒
ISO 1600 70-200@200 mm
基本補正
ホワイトバランス： カスタム
色温度 3600
色かぶり補正 +20
自動補正 初期設定
露光量 +0.50
コントラスト 0
ハイライト 0
シャドウ 0
白レベル 0
黒レベル -50
明瞭度 0
自然な彩度 +50
彩度 +50
先にシャープとノイズ低減に使用した写真です。四隅に僅かですが、レンズ固有の周辺光量落ちがあります。これを補正します。
周辺光量落ちの補正です
←四隅が周辺光量落ち
15ダンサーYちゃん補正途中.dngを開きます→
on D700 – 15ダンサーYちゃん補正途中.dng
24.8%
画像を保存...
Adobe RGB (1998); 8 bit; 2832 x 4256 (12.1 メガピクセル); 240 ppi
オブジェクトとして開く
キャンセル
完了



（注）レンズ補正がうまくいかない場合には、設定やレンズプロファイルのプルダウンメニューを開いて、使用したレンズを探して下さい。
使用も保有もしていないレンズのプロファイルを当てはめると、思わぬ効果が出ることがあります。お試し下さい。


ゆがみ補正
プレビュー
R: 127
G: 197
B: 191
f/4.8 1/180 秒
ISO 1600 20 mm
基本補正
ホワイトバランス： カスタム
色温度 5100
色かぶり補正 −5
自動補正 初期設定
露光量 +1.00
コントラスト 0
ハイライト 0
シャドウ 0
白レベル 0
黒レベル 0
明瞭度 +100
自然な彩度 +100
彩度 +100
この写真は、彩度の補正項にて使用した写真です。広角レンズの使用方法がよくなかったために、画面の左側が上下に開いてしまいました。
37%
24酒屋さんの可愛い子完成.dngを開きます→
kon D700 – 24酒屋さんの可愛い子完成.dng
画像を保存...
Adobe RGB (1998); 8 bit; 4256 x 2832 (12.1 メガピクセル); 240 ppi
画像を開く
キャンセル
完了


レンズ補正の手道を選択→
水平方向　+19→
上記の水平方向補正でかなり正すことができました。
但し、左側にグレーの空白部分が生じてしまいました。これに関しては17章で説明します。
発生した空白をうまく
塗りつぶす方法も解説

トリミング次第で写真は生きてくるもの。ヴテランでも撮影時には左右どちらかに傾くもの。でも0.5度傾くと写真を見慣れた人は直ぐ分かる。
この章ではそのトリミングと角度補正を同時処理。但し、角度補正はやや難有りか。







大胆なトリミング、微妙な回転の処理方法


プレビュー
R: ---
G: ---
B: ---
f/2.8 1/180 秒
ISO 3200 24-70@24 mm
基本補正
ホワイトバランス： カスタム
色温度 2550
色かぶり補正 -39
自動補正 初期設定
露光量 0.00
コントラスト 0
ハイライト 0
シャドウ 0
白レベル 0
黒レベル 0
明瞭度 0
自然な彩度 0
彩度 0
HOPE
08HOPEカードWBバランス処理済み.dngを開きます→
D700 - 08HOPEカードWBバランス処理済み.dng
これはごく普通の
トリミング
画像を保存...
オブジェクトとして開く
キャンセル
完了


←切り抜きツール
通常
1 対 1
2 対 3
3 対 4
4 対 5
5 対 7
9 対 16
21 x 29.7 cm
←カスタムでA4サイズも指定できる
カスタム...
画像内に制限
オーバーレイを表示
切り抜きを消去
プレビュー
基本補正
ホワイトバランス：
カスタム
色温度
2550
色かぶり補正
-39
自動補正
初期設定
露光量
0.00
コントラスト
ハイライト
シャドウ
白レベル
黒レベル
明瞭度
自然な彩度
彩度
一つしか設定できませんが、右の例にように任意サイズ(A4サイズ)を登録しておくこともできます。
RAWはトリミングしても
元データは残ります
画像を保存...
画像を開く
キャンセル
完了

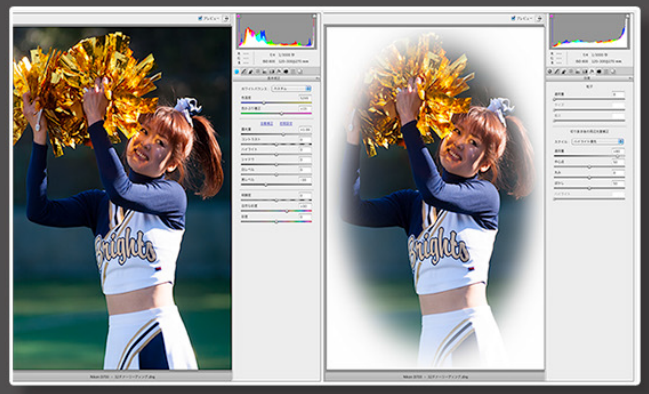


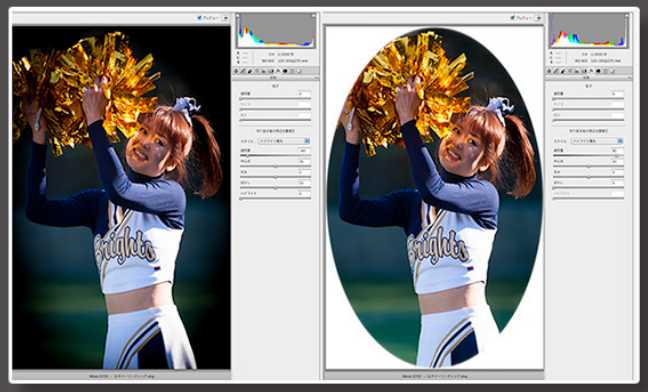
（注）シフトキーを押しながら回転させると、15度単位に回転します。やり直しは、コマンドキー+Zキーです。

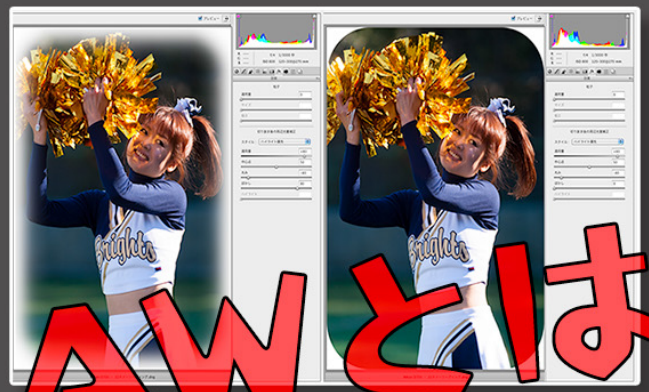


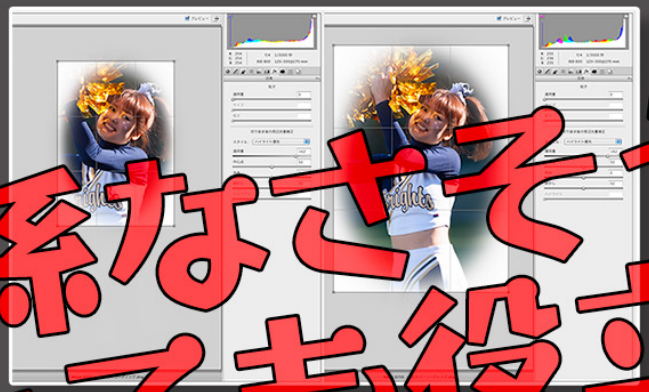
（注）既に切り抜いてしまった画像を完全に元に戻すには、切り抜きツールの画面でデリートキーを押します。
また完全に切り抜きしたことを止めるのであれば切り抜きツールをクリックして最下段の「切り抜きを消去」を選択します。

RAW現像とは関わり無さそうな、Photoshop本体でもできそう。
でも使ってみると結構お役立ちの機能。
しかもPhotoshopでやるよりもはるかに簡単。









RAWとは関係なさそうな
機能だけどとても役立つ

日常的に使う機能ではないものの、
アートっぽくしたいときに役立ちます。









アートにできる。だから
撮り損ない写真を大切に


プレビュー
R: 204
G: 218
B: 235
f/5 1/1600 秒
ISO 400 24-120@24 mm
基本補正
ホワイトバランス： カスタム
色温度 4700
色かぶり補正 +11
自動補正 初期設定
露光量 +1.00
コントラスト 0
ハイライト 0
シャドウ 0
白レベル 0
黒レベル -80
明瞭度 0
自然な彩度 +70
彩度 0
そんなにも使用する機能ではありませんが、粒子機能を覚えましょう。
一見キレイな写真がよいか
16福島の春完成.dngを開きます→
32%
Nikon D4 – 16福島の春完成.dng
画像を保存...
Adobe RGB (1998); 8 bit; 4928 x 3280 (16.2 メガピクセル); 240 ppi
画像を開く
キャンセル
完了


プレビュー
露光量をゼロに戻す→
R: ---
G: ---
B: ---
f/5 1/1600 秒
ISO 400 24-120@24 mm
基本補正
ホワイトバランス： カスタム
色温度 4700
色かぶり補正 +11
自動補正 初期設定
露光量 0.00
コントラスト 0
ハイライト 0
シャドウ 0
白レベル 0
黒レベル -80
明瞭度 0
自然な彩度
彩度
ならばいっそのこと、露光量をゼロ戻して画像を暗くしてみましょう。なんとなく、アート性が出たような。
私の意には則さない
ザラザラ写真
32%
画像を保存...
画像を開く
キャンセル
完了


プレビュー
R: ---
G: ---
B: ---
f/8 1/2500 秒
ISO 400 15 mm
基本補正
ホワイトバランス： 撮影時の設定
色温度 5200
色かぶり補正 +4
自動補正 初期設定
露光量 +0.60
コントラスト +50
ハイライト -100
シャドウ 0
白レベル 0
黒レベル 0
明瞭度 +50
自然な彩度 +50
彩度 0
明暗別色補正を覚えておくと、アーティストになったような気分です。
意味不明な写真なのだけど
33スカイツリー至近.dngを開きます→
Nikon D4 – 33スカイツリー至近.dng
21.4%
画像を保存...
Adobe RGB (1998); 8 bit; 3280 x 4928 (16.2 メガピクセル); 240 ppi
オブジェクトとして開く
キャンセル
完了


プレビュー
R: ---
G: ---
B: ---
f/8 1/2500 秒
ISO 400 15 mm
明暗別色補正
ハイライト
色相 0
彩度 100
バランス 0
シャドウ
色相 237
彩度 100
色相を選び、彩度の数値を大きくする→
次にアンダーの部分の色を決めます。ここでは、濃い青とし彩度を100にしました。
モノクロ写真の様なカラー写真に
21.4%
画像を保存...
オブジェクトとして開く
キャンセル
完了

なんとなくこの辺りというアバウトな位置決めで、
背景や衣装等の色味や明るさを微妙に変える便利な機能です。
始めは分かりにくい機能ですが慣れれば簡単。





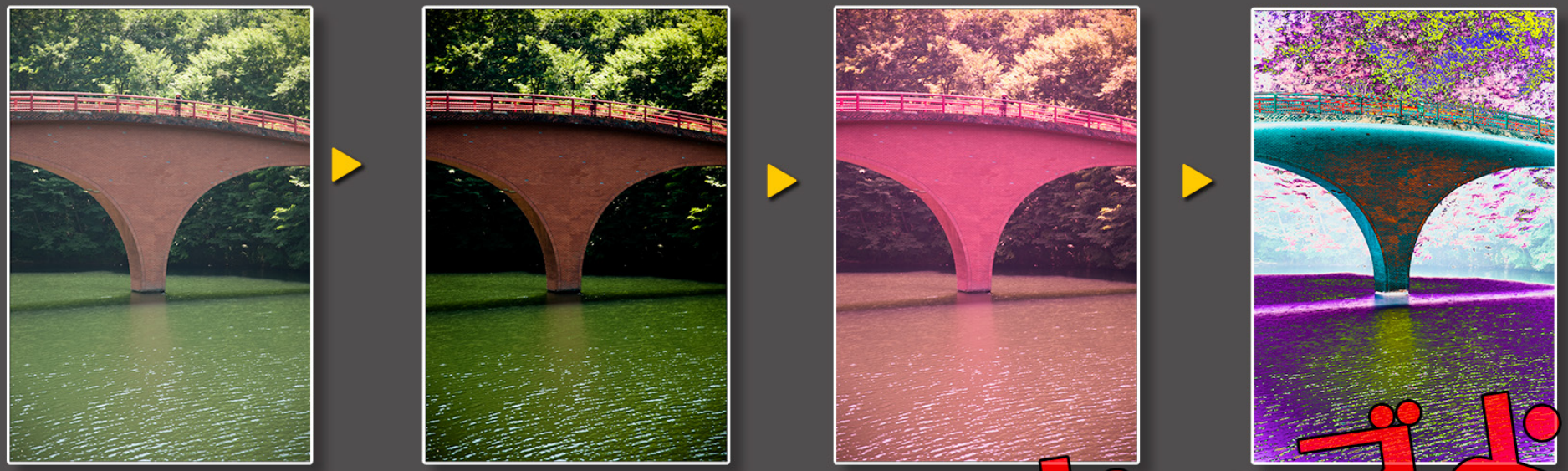
微妙な色味・明暗調整、時には大胆な背景変更


彩度を選ぶ
次に輝度をクリックし同じように空の部分を上方向にドラッグします。すると少し明るい空になりました。
逆に、下方向にドラッグするとやや暗い空になりました。
お花の色味を変えることなく
空だけ変える


プレビュー
R: ---
G: ---
B: ---
f/2.8 1/250 秒
ISO 3200 70-200@195 mm
基本補正
ホワイトバランス： カスタム
色温度 3050
色かぶり補正 -5
自動補正 初期設定
露光量 0.00
コントラスト 0
ハイライト 0
シャドウ 0
白レベル 0
黒レベル 0
明瞭度 0
自然な彩度 0
彩度 0
実例で試して見ましょう。この写真は、お肌が茶黄色がかっています。肌色が一番嫌うところです。
衣装の色味だけ微調整
34ヴェール.dngを開きます→
37%
Nikon D700 – 34ヴェール.dng
画像を保存...
Adobe RGB (1998); 8 bit; 4256 x 2832 (12.1 メガピクセル); 240 ppi
オブジェクトとして開く
キャンセル
完了

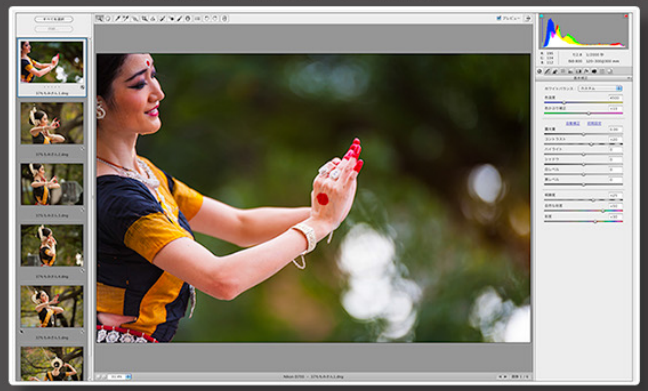

プレビュー
色かぶり　+10
R: ---
G: ---
B: ---
f/2.8　1/250 秒
ISO 3200　70-200@195 mm
基本補正
ホワイトバランス：　カスタム
色温度　3050
色かぶり補正　+10
自動補正　初期設定
露光量　0.00
コントラスト　0
ハイライト　0
シャドウ　0
白レベル　0
黒レベル　0
明瞭度　0
自然な彩度　0
彩度　0
色かぶりを+10にしてみました。元々ヴェールが青みがかっていましたが、更に青くなってしまいました。
37%
Nikon D700 – 34ヴェール.dng
画像を保存...
Adobe RGB (1998); 8 bit; 4256 x 2832 (12.1 メガピクセル); 240 ppi
オブジェクトとして開く
キャンセル
完了

そもそもRAW現像は、トーンカーブ機能を必要としません。
お薦めする用途はほんの少しの明暗調整のみ。
あるいはソラリゼーションのような特殊効果。

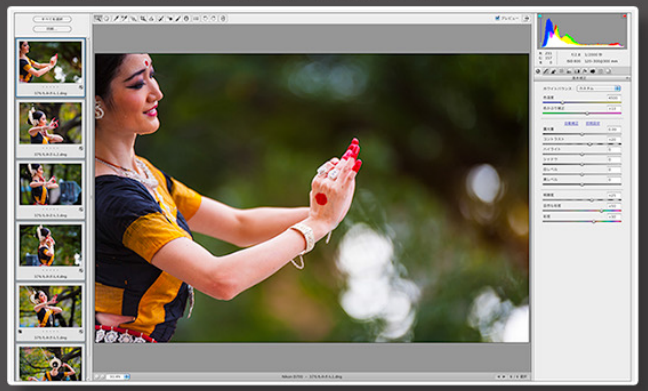


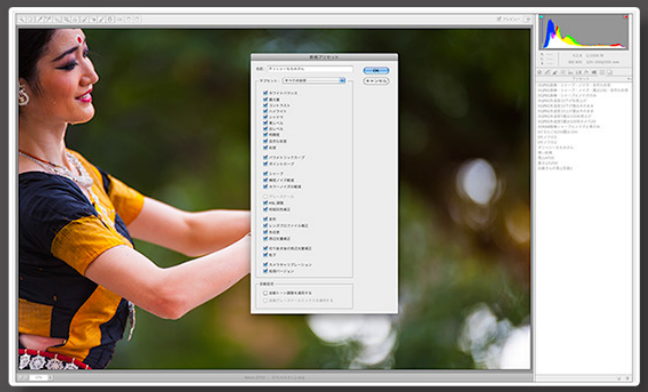
もはや、トーンカーブよ
さようなら、です。

同期、プリセット、バッチ処理により能率良くRAW現像とデータ作成可能。だからJPEGデータをPhotoshopで補正するより圧倒的に早い。

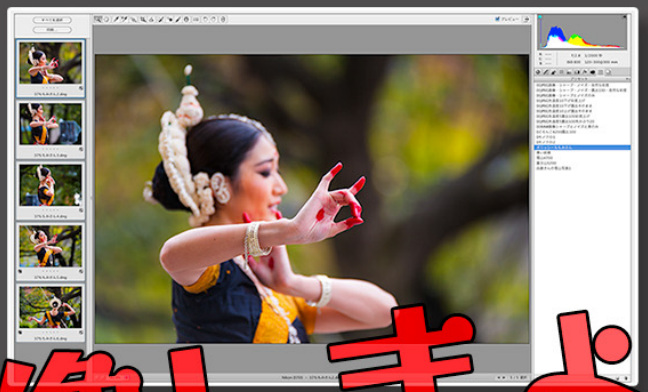


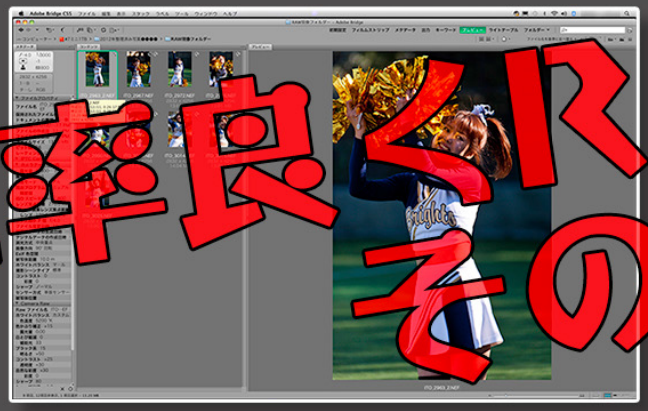
一つRAW現像すれば、類似の画像は「同期」で一気にRAW現像





一つRAW現像したら、名前をつけてプリセット登録。他の画像にそのプリセットを当てはめるだけでRAW現像完了。

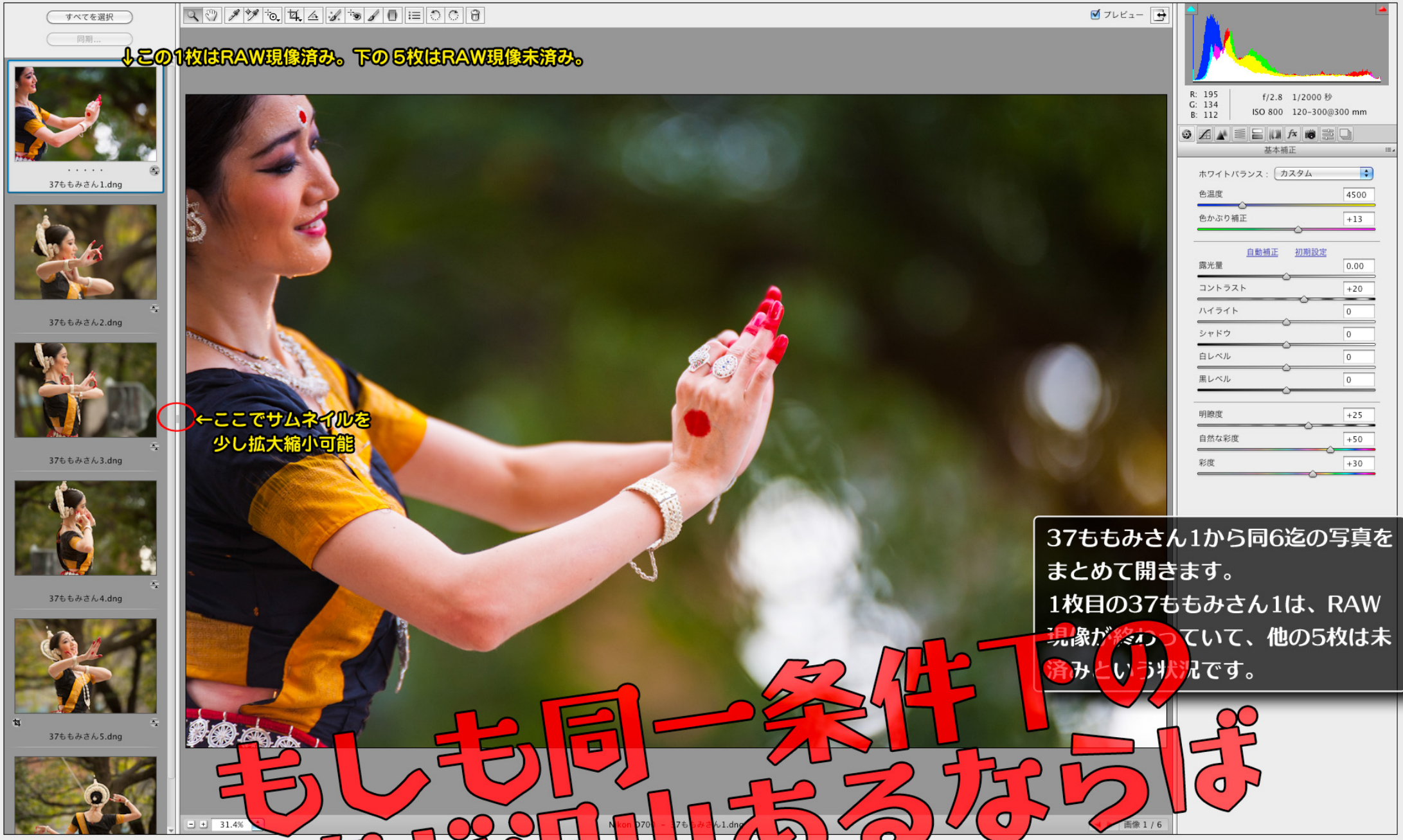




一々RAW画像からJPEG画像を作らずに、バッチ処理で一括して生成。その間、他の作業をするか、コーヒーブレイクしましょう。



能率良くRAW現像しましょう その3つの方法



（注）上記の赤丸の部分を右に寄せるとサムネイルを少し小さく（少し数多く）表示できます。左端まで寄せると一時的にサムネイルを見えなくし、画像をその分だけ大きく表示できます。



同期でまとめて手早くRAW現像

（注）初めから同様の画像をまとめて開いておいて全てを選択してRAW現像すると、全ての画像を同時にRAW現像できます。



(注) 上記の赤○部分をクリックすると、プルダウンメニューが表れ、その中の「設定の読み込み」を選択して、同梱の「プリセット」フォルダーを開き、「青い妖精」を選択してください。

14-3.バッチ処理

←RAW現像フォルダーにコピーし、JPEGデータは削除し、RAW（+xmp）のみにします。
なおxmpデータは表示されません。

RAW現像した後、一々画像として開き、JPEGデータとして保存することは、写真枚数が多い場合には、かなりの時間が掛かります。その解決策としてバッチ処理をお薦めします。
RAWデータを、例えば「RAW現像フォルダー」とかの名前を付けた（名前はなんでもよい）フォルダーにコピーし、このRAWデータからJPRGデータをバッチ処理にて自動的に生成する方法です。

バッチ処理の方法を丁寧に説明

（バッチ処理はCS5でもCS6でもその方法は同一ですので、いきなりRAW現像のCS5対応版の解説書をそのまま使用しています）

（注）BridgeでRAWデータを他のフォルダーにコピーすると、撮影時のJPEGデータも一緒に仲良くコピーされます。そのJPEGデータはバッチ処理には不要なので消去します。マニュアルで他のフォルダーにコピーすれば、RAWデータのみコピーできます。但し、この場合はRAWデータにつきものの.xmpというデータを漏れなくコピーしなくてはなりません。Bridgeにてのコピーは何も指定しなくてもこの.xmpデータはコピーされます。なお、DNGの拡張子があるRAWデータには.xmpはありません。


Adobe Bridge CS5 ファイル 編集 表示 スタック ラベル ツール ウィンドウ ヘルプ
RAW現像フォルダー – Adobe Bridge
初期設定 フィルムストリップ メタデータ 出力 キーワード プレビュー ライトテーブル フォルダー
コンピューター › #7ミニ1TB › 2012年整理済み写真●●●● › RAW現像フォルダー
メタデータ
コンテンツ
プレビュー
ITO_2963_2.jpg
ITO_2963_2.NEF
ITO_2967.jpg
ITO_2967.NEF
ITO_2972.jpg
ITO_2972.NEF
ITO_2976.jpg
ITO_2976.NEF
ITO_2990.jpg
ITO_2990.NEF
ITO_3010.jpg
ITO_3010.NEF
ITO_3014.jpg
ITO_3014.NEF
ITO_3015.jpg
ITO_3015.NEF
ITO_3025.jpg
ITO_3025.NEF
←元のRAW画像
↑自動生成されたJPEG画像
ご覧通り、自動的にJPEGデータができました。
これで完了です。
まとめてJPEG画像を生成できました
18 項目, 12項目非表示, 1 項目選択 – 2.50 MB

RAWは12ビット(14ビット)。8ビットのJPEGとは階調の豊かさが格違い。
モノクロ写真にチャレンジしてみる価値は大いににあります。











RAW現像で
モノクロ写真作りに挑戦



筆者はモノクロ写真の知識も技術は薄いですが、とにかくRAW現像機能を使用してのモノクロ写真を行っています。その方法を説明しましょう。

こんなにも薄ぼんやりした写真ですが・・・


プレビュー
①明暗識別補正パネルを開く→
②彩度をほんの少し上げる→
③こちらも彩度をほんの少し上げる→
R: ---
G: ---
B: ---
f/6.7 1/1000 秒
ISO 200 24-70@24 mm
明暗別色補正
ハイライト
色相 0
彩度 2
バランス 0
シャドウ
色相 224
彩度 2
この程度にはなります
モノクロプリント機能を持たないインクジェットプリンタの場合、なにがしかの色がついてしまう場合があります。この対策として、明暗識別補正でほんの少し色をつけてプリントする方法もあります。
37%
Nikon D700 – 38穐を知る.dng
画像を保存...
Adobe RGB (1998); 8 bit; 4256 x 2832 (12.1 メガピクセル); 240 ppi
オブジェクトとして開く
キャンセル
完了



（注）.NEFの拡張子がついた画像は、ニコンカメラで撮影したことを意味します。拡張子が.dng以外の場合は、カメラメーカー毎にこの拡張子は異なります。


↑①段階フィルターを選択
②露光量をマイナスに→
←上からこの辺りまでドラッグ
やや上の八重桜が明るいように思います。そこで、暗くするために段階フィルターを選択し、露光量を下げます。
それをどうするかです
プレビュー
R: 3
G: 3
B: 3
f/8 1/4 秒
ISO 100 24-120@78 mm
段階フィルター
新規
編集
色温度 0
色かぶり補正 0
露光量 -1.10
コントラスト 0
ハイライト 0
シャドウ 0
明瞭度 0
彩度 0
シャープ 0
ノイズ軽減 0
モアレ軽減 0
フリンジ軽減 0
カラー
オーバーレイを表示
すべてを消去
32%
Nikon D4 - 39春雨.NEF
画像を保存...
Gray Gamma 2.2; 8 bit; 4928 x 3280 (16.2 メガピクセル); 240 ppi
画像を開く
キャンセル
完了

JPEG画像をRAW現像してみるとどうなるでしょうか。
撮り損ない写真がアートになるかもしれないし、
あるいは無駄な努力かもしれません。ともかく体験しましょう。

（無駄な努力の例）



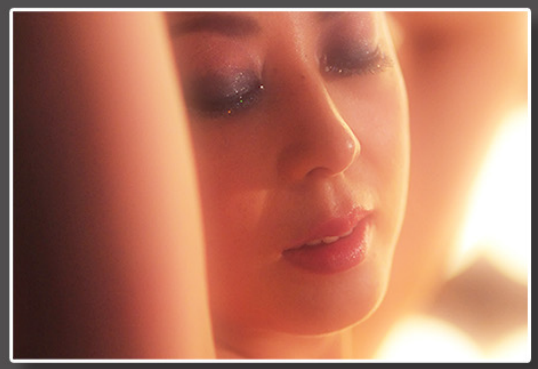


（HDRアート風の例）





（意外な趣の例）



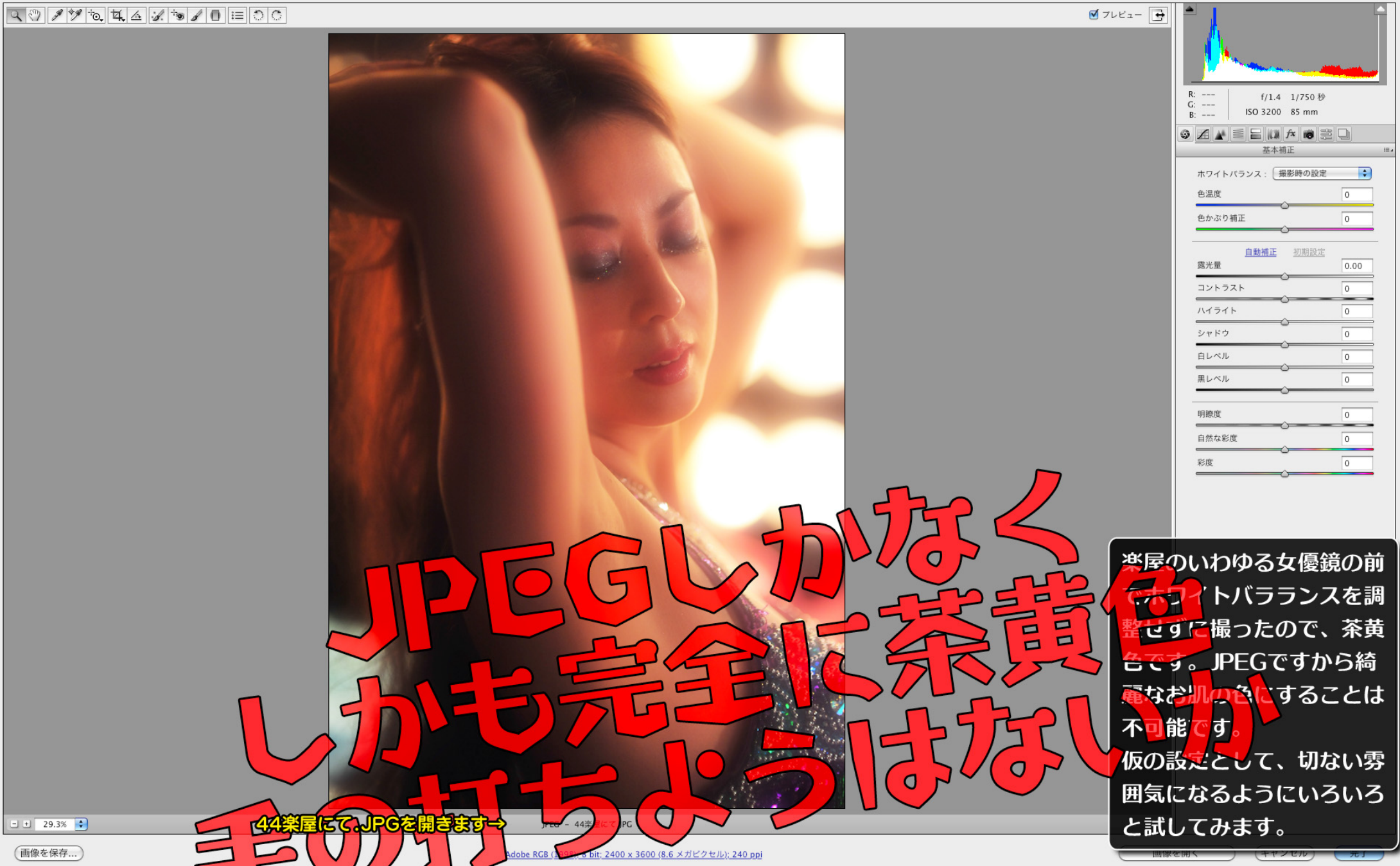


JPEG画像をRAW現像
するとどうなるかを検証


プレビュー
R: 119
G: 90
B: 57
f/5.6 1/180 秒
ISO 400 28 mm
基本補正
ホワイトバランス：撮影時の設定
色温度 0
色かぶり補正 0
自動補正 初期設定
露光量 0.00
コントラスト 0
ハイライト 0
シャドウ 0
白レベル 0
黒レベル 0
明瞭度 0
自然な彩度 0
彩度 0
52.1%
画像を保存...
この写真は約10年前に神楽坂にて撮影しました。この頃はRAWで撮るなんて考えも及びませんでした。
RAWで撮っておけば、日傘の白飛びも直せたし、黒板塀の質感も出せ、画面の曲がりも補正できたのにと悔しい思いがしています。
写真が分からなかった
10年前の締まらない写真



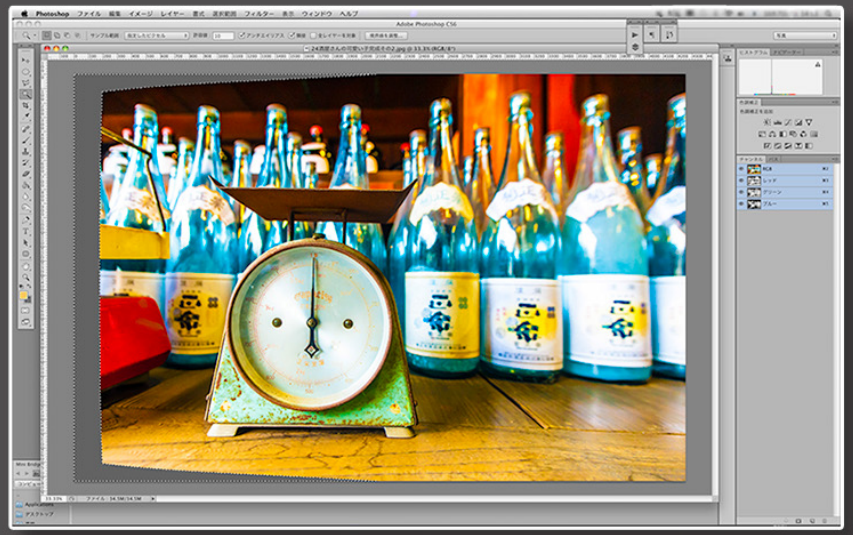
（注）左右・下の部分の空白部分をどのようにするについては、第6章をご覧下さい。


プレビュー
R: ---
G: ---
B: ---
f/1.4 1/750 秒
ISO 3200 85 mm
基本補正
ホワイトバランス： 撮影時の設定
色温度 0
色かぶり補正 0
自動補正 初期設定
露光量 0.00
コントラスト 0
ハイライト 0
シャドウ 0
白レベル 0
黒レベル 0
明瞭度 0
自然な彩度 0
彩度 0
JPEGしかなく
しかも完全に茶黄色
手の打ちようはないか
44楽屋にて.JPGを開きます→
楽屋のいわゆる女優鏡の前でホワイトバラランスを調整せずに撮ったので、茶黄色です。JPEGですから綺麗なお肌の色にすることは不可能です。
仮の設定として、切ない雰囲気になるようにいろいろと試してみます。
29.3%
画像を保存...
Adobe RGB (1998); 8 bit; 2400 x 3600 (8.6 メガピクセル); 240 ppi



キレイな肌色は諦めて少し異端な補正をしてみよう

RAW現像を知れば、難しいPhotoshopの知識は殆ど要りません。
周辺塗りつぶし、部分的なシャープネス、バッチ処理の3つだけで充分。









もうPhotoshopは これだけ分かれば充分

18章　Bridgeの使用方法

←このコンテンツはクリックしておきましょう。

脅すわけではありませんが、Bridgeの外観の設定は大変にややこしいのです。初めてBridgeを開くとこのような画面が出て、これからどのようにしたらいいのか見当が付きません。事始めの著者がそうだったように迷って嫌になってしまうことが懸念されます。とは言え、このBridgeがあってこそRAW現像が可能となるのですから、このハードルは乗り越えて欲しいと願っています。
なお、慣れると良くできるていると思わせるソフトです。

PhotoshopとそれにバンドルされているBridgeとCamaraRawの役割と関係

Bridge
写真の選択と整理
RAWデータを開く

CameraRaw
RAW現像を行う

Photoshop
RAW現像でできないことを補足
JPEGデータを作る
プリント







3つのソフトの役割を明確にしています

（注）BridgeにてのRAWデータファイルの開き方（4種類あり）＝①メニューバーのファイル→CameraRawで開く②ダブルクリック③Comand+Rキー④単にリターンキーCamera RawにてのPhotoshop画像の開き方＝画面右下の「画像を開く（時としてオブジェクトとして開く）」をクリック。JPEGデータとしての保存=Photoshop画像の時に「別名保存」にて各種のデータ形式の中からJPEGを選んで保存。



分かりにくいBridgeを丁寧に解説


Adobe Bridge CS6 ファイル 編集 表示 スタック ラベル ツール ウィンドウ ヘルプ
サンプルデータ集 – Adobe Bridge
初期設定 フィルムストリップ メタデータ 出力 キーワード プレビュー ライトテーブル フォルダー
レーティング
レーティングなし ⌘0
除外 ⌥⌫
★ ⌘1
★★ ⌘2
★★★ ⌘3
★★★★ ⌘4
★★★★★ ⌘5
レーティングを下げる ⌘,
レーティングを上げる ⌘.
ラベル
ラベルなし
選択 ⌘6
第 2 候補 ⌘7
承認済み ⌘8
レビュー ⌘9
作業用
ここで必要なのは、写真選択時のレーティングだけでしょう。
使い方のヒントを
01_01完成.NEF
95 項目, 7項目非表示, 1 項目選択 – 11.29 MB


以上、Bridgeの外観の設定とレイアウトについてご説明しました。
筆者としては、JPEGデータとRAWデータが2つずつペアで並んでいるこの形式が一番使いやすいです。
では、第1章のオリエンテーションに行きましょう。
万遍なくではなく
限定的に推奨してます